

三十の輻、一つの轂を共にす。其の無に当たって、車の用有り。埴を  
 埴ちて以て器を為る。其の無に当たって、器の用有り。戸牖を鑿ち  
 て以て室を為る。其の無に当たって、室の用有り。故に有の以て利を  
 為すは、無の以て用を為せばなり。

【大体の意味内容】車輪は、三十本の輻が、中心の轂に集まってできている。この轂の

中心に、何もない空洞があるからこそ、車輪としての効用を果たすことができる。粘土をよく  
 練って延ばし、器を作る。その内部には何もない空洞があるので、さまざまなものを入れる  
 器としての効用を果たすことができる。戸口や窓をくりぬくことで、家はできている。そうし  
 た何もない穴や、内部空間があつてこそ、家としての効用を果たすことができる。これらのこ  
 とから、存在することによって利益がもたらされるのは、実は空虚さが元になってこそ、可能  
 なのである。

宮本武蔵《枯木鳴鶉図》



東洋の絵画や日本の水墨画には空白が多いためがよい話題になりますが、いわばその最たるものが、元祖二刀流の剣豪宮本武蔵の、代表的な絵画作品です。

「枯木鳴鶴図」は、「枯わた木の枝に、巣たてた鳥が鳴く図」としてその意味ですが、この、何もなき虚空間にのみわたるお、凜とした姿勢、じつかに遠くをながめる姿、何とも言えない緊迫感を感じます。何も描かれていない余白・空白は、決して手抜きで何も描かなかったのではな、へ、あえて何も描かないことで強烈な気迫や気配を感じてくれるわけです。

この上なく静かなたたずまいであるにもかかわらず、根底に裂帛の気合（ピンと張の広げた布を、一瞬にして切り裂くような気合）が潜んでいるような物騒み、まで催してまいります。

ちなみに想像してみてください。この絵の背景に森とか田園とか、川や池とか、家並みや人々の姿、ほかの動物の姿、何でもござりの描いてある様子を、想像してみてください。印象が随分変わってまいります。少なへとも、しまらない絵になってしまいますか？

この絵はむしろ、無の虚空間が主役なのであります。その虚空間の、姿気のようなものを効果的に際立たせ、感じ取らせるために、最小限度の線描が施されているに過ぎない。しかもその線は、百戦錬磨の剣豪が、一気に筆を走らせた見事な線、太刀振りのごとき魂の軌道が現れています。無の力こそ、無限に大きく、深い。